

名称：^{あいづかいどう}会津街道—^{ろくじゅうりごえ}六十里越

選定箇所：穴沢、細野（三茶峠）、大倉沢、三沢、東中、下倉、田戸（新潟県魚沼市）

概要：魚沼地方と奥会津地方を結ぶ街道で、中世には軍用道路として利用された。近世になると、暮らしの道として日用雑貨類や綿布などが運ばれたほか、「越後縮」の原料として奥会津で生産された青苧が六十里越を通過して小出・堀之内に卸された。堀之内で三国街道と別



れ、破間川沿いに上流へ向かい、大白川新田から浅草岳の南側鞍部を越えて福島県南会津郡只見町に通じる県境の峠道をいう。

（追）20

名称：^{さどじ}佐渡路—^{みくにかいどう}三国街道

選定箇所：栃原峠（新潟県魚沼市）

概要：日本海側と太平洋側を結ぶ主要な街道の一つで、幕府の佐渡金山の開発に伴って整備が進められた。堀之内は水陸交通の要衝に位置し、慶長年間（1596～1615）には三国街道の宿場となった。魚野川の水運が盛んになるに伴い商業化が進み、十日町や小千谷と



並び縮市が開かれた。堀之内～浦佐間を走る栃原峠は寛永年間（1624～1643）に開削され、魚野川を渡る必要がない最短の街道として整備された。今回は既選定箇所の北側を追加する。